



# Q.三芳のこの場所、わかりますか？

月日を遡ってみると、三芳はこんな場所でした。



## 「Q.三芳のこの場所、わかりますか？」回答編

1【上富 1963年頃】開拓当時の屋敷林が並木状に残る六間道（道幅が六間＝約11mの道。現在のいも街道）。



2【竹間沢 1978年】ヤマ（平地林）が広がっていた竹間沢字新開及び藤久保字唐沢で区画整理が始まっています。



3【北永井 1970年】旧役場庁舎。「町」で作成した銘板の上から、町になるまで一時的に「村」に訂正がされています。



4【上富 1970年頃】未舗装の砂利道だった六間道の舗装工事の様子。歩道もなく、開拓当時の道幅を留めています。



5【藤久保 1970年頃】江戸時代の杉並木の面影が残る川越街道。現在は写真に写る松が数本残るのみとなっています。



6【藤久保 1971年】完成直後の藤久保小学校の様子。背景に建物は少なく、川越街道の杉並木を見ることができます。



7【竹間沢 1970年頃】屋敷の周りに木を植えた屋敷林が多く残り、茅葺き屋根の民家も見ることができます。



8【藤久保 1970年頃】鎌倉街道と呼ばれる歴史ある道です。未舗装で交差点には信号もなく、農村の面影が残ります。



9【北永井 1970年頃】三芳小学校前交差点。信号機に視認性を高めるためのゼブラ柄の背面版が付いています。



■ 未舗装の砂利道は2分の1に減った一方で、宅地面積は2倍以上増加。昭和45（1970）年に木造の2階建ての村役場から建て替えられた鉄筋コンクリートの役場庁舎も人口の増加で手狭になり、平成6（1994）年に現在の庁舎に移転しました。街並みの移り変わりを知らずには、歴史に触れる最も身近な方法のひとつです。このページでは都市化の波により、街並みが変わる前後の三芳を写真で紹介しています。昔から三芳に住んでいる人も、最近引っ越してきた人も、現在の街並みとの変化をクイズ形式で楽しんで、歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

## 普

段目にしては街並みは日々少しずつ変化しています。その変化には気づきにくく、数年後に見比べてその変化に驚くことがあります。年数が経てばそれだけ変化は大きく、場所がわからなくなるようなことも…。

三芳の風景も人口が急増を始めた昭和30年代後半から、都市基盤の整備を着実かつ急ピッチで進めてきたため、大きく変化しています。